

当院で処方している薬は2種類有り、「モキシデック」と「カルドメック」です。モキシデックは心臓に寄生する前のフィラリアにしか効きませんので体に与える影響は最小限で大変安全です。しかし、カルドメックはモキシデックの効果のほか心臓内の成虫・ミクロフィラリアまで駆虫する効果がありますので、既にフィラリアに感染している犬には危険で使用は出来ません。また、フィラリアと同時に腸内寄生虫も駆虫し、チュアブルタイプ(肉の固まり)であるため投薬しやすいという付加価値があるので、値段も少々高くなります。

4 感染していた場合どうすればいいですか

心臓に寄生した虫は、手術によって虫を物理的に取り除いたり、砒素などの薬物を使って駆虫したりすることができます。しかしどちらの方法も犬にとっての負担が大きくなりますので、当院では緊急の場合を除き、犬への負担が少ない予防薬による治療を行っています。感染している状態で突然予防薬を与えるとショックを起こして死亡してしまう事があります。まずはその犬に対して与える投与量の1/4量から投薬していきます。

約2週間かけて1/4、1/2、3/4…とプログラムに沿って薬の量を増やしていきます。

100%を与えても安全であることを確認してから、次の月から通常量の予防薬を与えます。

フィラリアの寿命が5～6年なので、この間しっかり予防する事で徐々に心臓内のフィラリアは減っていき死滅します。

◎ワクチンについて

1. ワクチンって何ですか

動物間または人間に感染する病気を予防するために、接種する無毒化、弱毒化された病原体(抗原)のこと。これを接種することによって抵抗力(抗体)が強化され、特定の病気を予防もしくは罹っても軽症でおさえることができます。

2. なぜ打つのですか

接種して免疫力を強化することによって、恐ろしい伝染病から守ることができます。

特に、体力のない仔犬などでは伝染病に罹ると致命的な結果をもたらしたり、ジステンパー脳炎のように後遺症が残るため接種します。

3. いつでも打てますか。注意点は

病院ではワクチンを常備していますので、診察時間内であればいつでも接種できます。

ワクチンアレルギー・ストレスを最小限にするため、必ず健康診断を行ってから接種します。また、接種後十分様子を見るため、可能な限り午前中の接種が望ましいです。

・食欲元気はあるか。便・尿の調子は良いか。

・1週間以内にシャンプーや激しい運動など、ストレスを感じるような事はなかったか。

・今までに、ワクチン接種やその他注射の際、あるいは薬を服用した際に、何らかの異常がみられたか

・妊娠していないか

・仔犬であればワクチン接種時期は適当か。ワクチンプログラム最終日から2週間経過しているか。

・接種後、家で静かにできて、飼主は様子を見る事が出来るか。

以上のことについてチェックし、接種します。